


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」








項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	
設備投資	3年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている。	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている。	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店販売は、まん延防止等重点措置の解除後の人流増加に伴い、緊急事態宣言中であった前年を大きく上回っている。スーパー販売は概ね前年並み。コンビニエンスストア販売は、客足が戻ってきたエリアを中心に好調。乗用車販売は、半導体不足等の影響による供給の遅れから、厳しい状況が継続している。ドラッグストア販売は、前年並みで推移している。家電大型専門店販売、ホームセンター販売は、巣ごもり需要等の反動減により前年を下回っているが、感染拡大前の水準を保っている。旅行取扱高は、まん延防止等重点措置の解除により国内旅行を中心に復調している。

(主なヒアリング結果)

- これまで高額商品、食料品が売上を下支えしていたが、外出機会の増加により、これまで不要不急として買い控えていたファッション関連（衣料品）に動きが出てきている。（百貨店、大企業）
- ウクライナ情勢や原油価格高騰の影響により、秋ごろまでは商品の値上げが継続する見込みであり、先行きは不透明。（スーパー、中小企業）
- 主要駅周辺や歓楽街など、客足が戻ってきたエリアを中心に好調。値上げを実施したファーストフードも販売数は変わらず売上を確保できている。（コンビニ、大企業）
- 引き続き半導体不足の影響によりメーカーが減産したため低調な登録台数となっている。納車まで平均半年待ちとなっており、車種によっては納車まで1年程度を要するものもある。（自動車販売、中小企業）
- 県民割の再開などにより、旅行機運も高まり、前年より収支改善。7月以降、コロナウイルス感染者が急増し、夏休みの旅行手配件数が減少しているが、前年度までの落ち込みは見られない。（旅行代理店、中堅企業）
- 4-6月の売上は、コロナ禍前（2019年比）の7割弱。前年比（2021年比）では大幅増。一般客の利用者は低調であるが、修学旅行客はコロナ禍前の水準まで回復。（宿泊、中小企業）
- 4-6月期の入場者数は前年比増（コロナ前との比較では8割程度）で、関東、関西からの修学旅行も見られるなど好調。今後は感染動向次第だが、周年記念イベントや旅行助成の対象拡大、夏休みシーズンによる客足の増加に期待。（娯楽、大企業）
- 売上・客数は4月以降、好調を維持しており、コロナ禍以前と同水準。他方で、小麦の仕入れ値は高止まりしているほか、電気・ガス代は今でも上がり続けており、現在の最大の懸念事項である。（飲食、大企業）

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

輸送機械の自動車は、サプライチェーンの影響により弱い動きとなっている。鉄鋼は、緩やかに持ち直している。電子部品・デバイス、産業機械向けや家電向けを中心に堅調に推移している。造船は、一定の受注残高及び操業を維持している。このように、生産活動は一進一退の状況にある。

- 受注は堅調であるものの、部品供給不足が継続しているため、生産台数は低調。（輸送機械、大企業）
- 全般的に堅調な中、自動車メーカーの減産により自動車用製品の生産量は減少。なお、製品価格の値上げについては継続的に取り組んでおり、収益性の改善に繋がっている。（鉄鋼、大企業）
- 広範囲で旺盛な半導体需要が継続している。また、足下の円安は当社には増益要因であるほか、原材料価格の上昇やコストの増加も価格転嫁できているため業況には影響していない。（情報通信機械、中堅企業）

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は改善傾向であり、需要回復に伴って宿泊・飲食サービス業等の求人数も増加しており、雇用情勢は持ち直しつつある。

- 半導体製品の需要は引き続き強く、人手が不足しているため期間工を含めて人員の確保に努めているが、地理的要因もあり苦戦している。（情報通信機械、中堅企業）
- 施設稼働率の回復に伴い人手が不足している。コロナの影響で離職した穴を補填する形で採用を考えており、経験者の中途採用は常に行っている。ただ、人件費などで条件に合致せず採用に至らないことも多い。（宿泊、中堅企業）
- まん延防止等重点措置が解除となり、今後の需要回復を見越して宿泊・飲食業の求人が回復しているほか、卸売業・小売業において大型商業店舗の開業やお中元販売のための求人が増えるなど、求人全体として改善の動きが続いている。（公的機関）

■ **設備投資 「4年度は増加見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「情報通信機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 通信関連や自動車向けなど広範囲で需要拡大が継続しており、シリコンウエハー関連の高精度化・生産能力増強の大型投資を実施するため、増加見込みとなっている。(非鉄金属、中堅企業)
- 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、投資の抑制を行い、維持更新が中心であったが、今年度は維持更新に加え、ビル建設などを予定しており、増加見込みとなっている。(運輸、郵便、大企業)

■ **企業収益 「4年度は増益見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、「窯業・土石製品」等で減益見込みとなっているものの、「電気機械器具」、「その他の輸送用機械器具」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を下回っている」**

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家、貸家、分譲住宅及び給与住宅が減少していることから前年を下回っている。




■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出 (円ベース) は、前年を上回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (4年4-6月期) の景況判断BSIで見ると、4年4-6月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、4年7-9月期は、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (4年4月判断)	今回 (4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
佐賀県	新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、一部に供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
長崎県	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。